

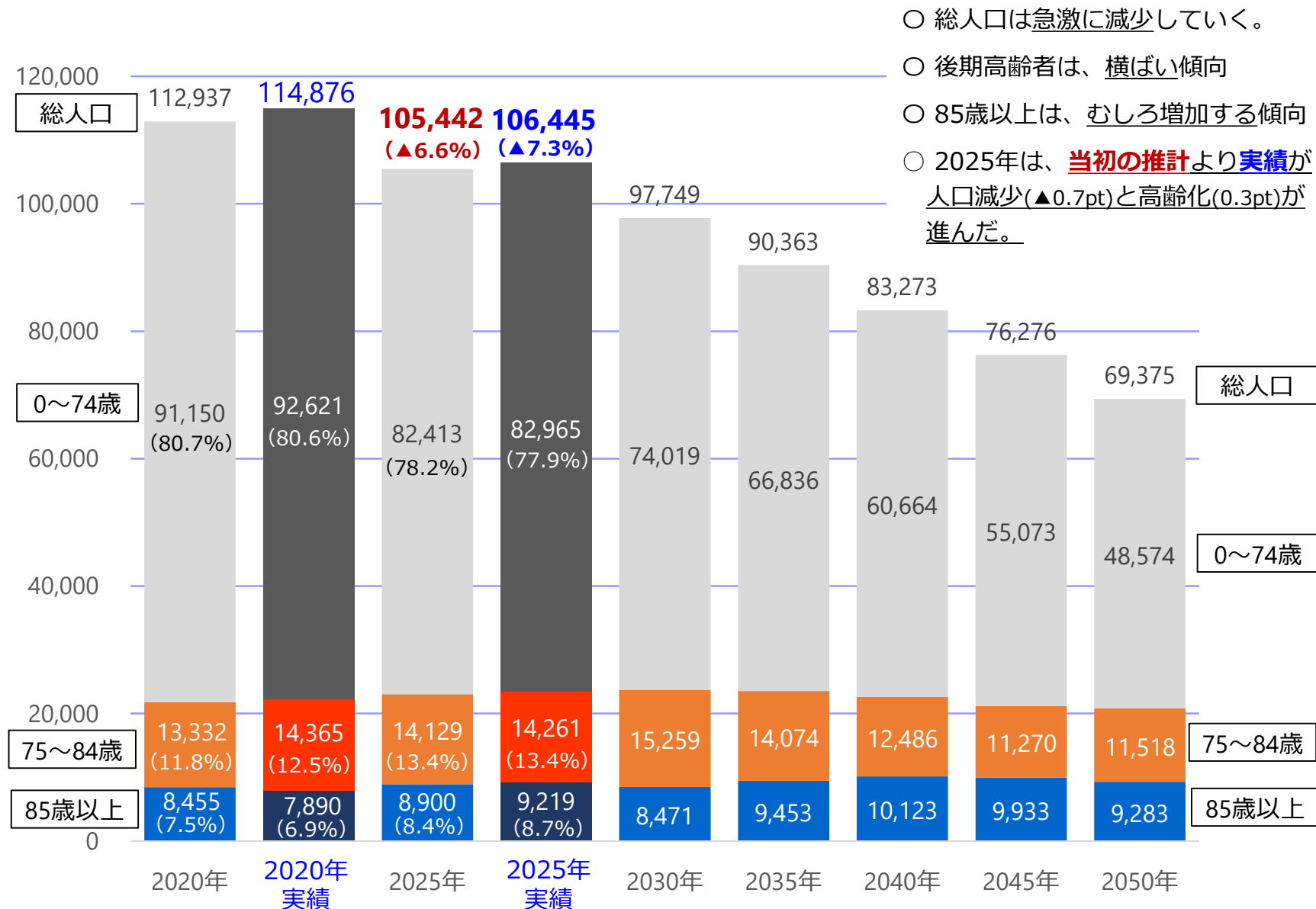
奥州市地域医療検討会議における意見交換等に基づく

中間とりまとめ

別 冊 資 料

[図表 1] 奥州市の将来人口推計	1
[図表 2] 胆江圏域と全国の医療・介護需要予測	2
[図表 3] 2040年の医療について①（全国的な傾向）	3
[図表 4] 2040年の医療について②（全国的な傾向）	4
[図表 5] 胆江圏域の病床機能別病床数	5
[図表 6] 胆江圏域の救急医療の状況	6
[図表 7] 在宅医療需要の変化（全国的な傾向）	7
[図表 8] 在宅医療の体制について	8
[図表 9] 2040年に向けた地域医療構想について（岩手県における整理）	9
[図表10] 新たな地域医療構想の策定に当たって岩手県における課題の整理	10

【図表1】 奥州市の将来人口推計



[図表2] 胆江圏域と全国の医療・介護需要予測

医療介護需要予測指数（2020年実績＝100）

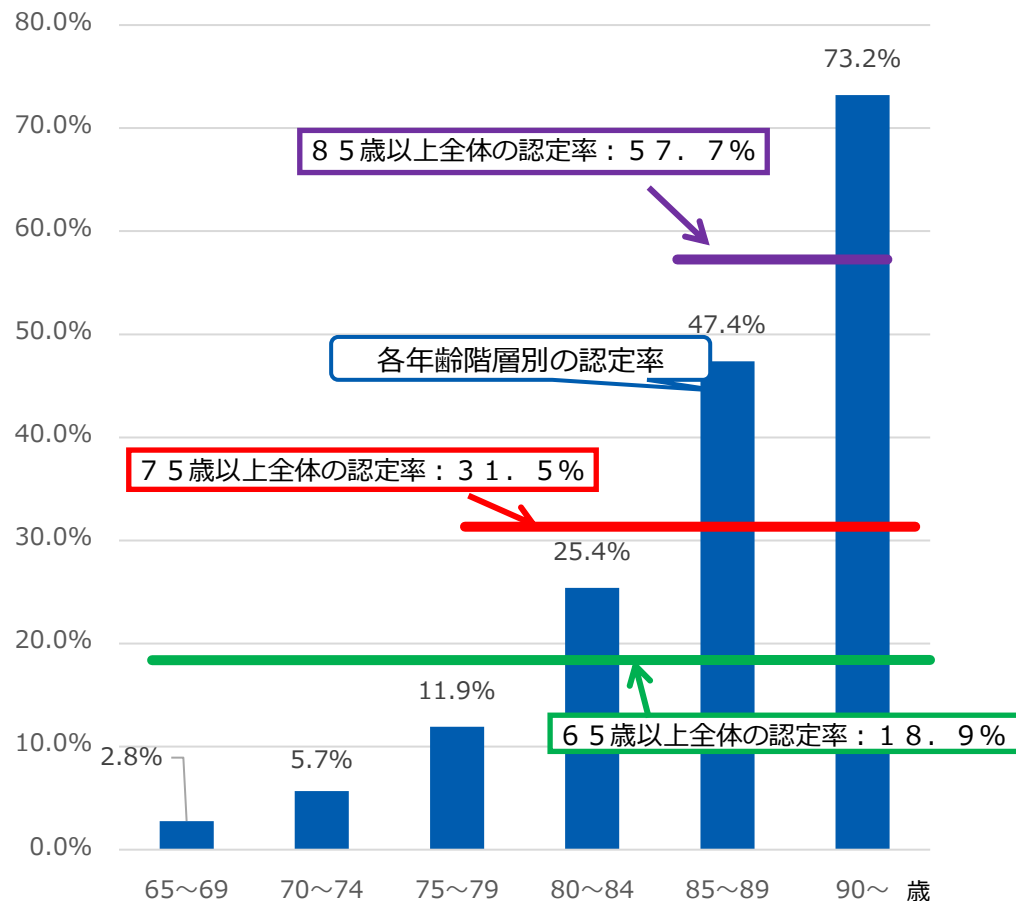


出典：地域医療情報システム（日本医師会）及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（R5推計）」より作成

2040年の医療需要について①

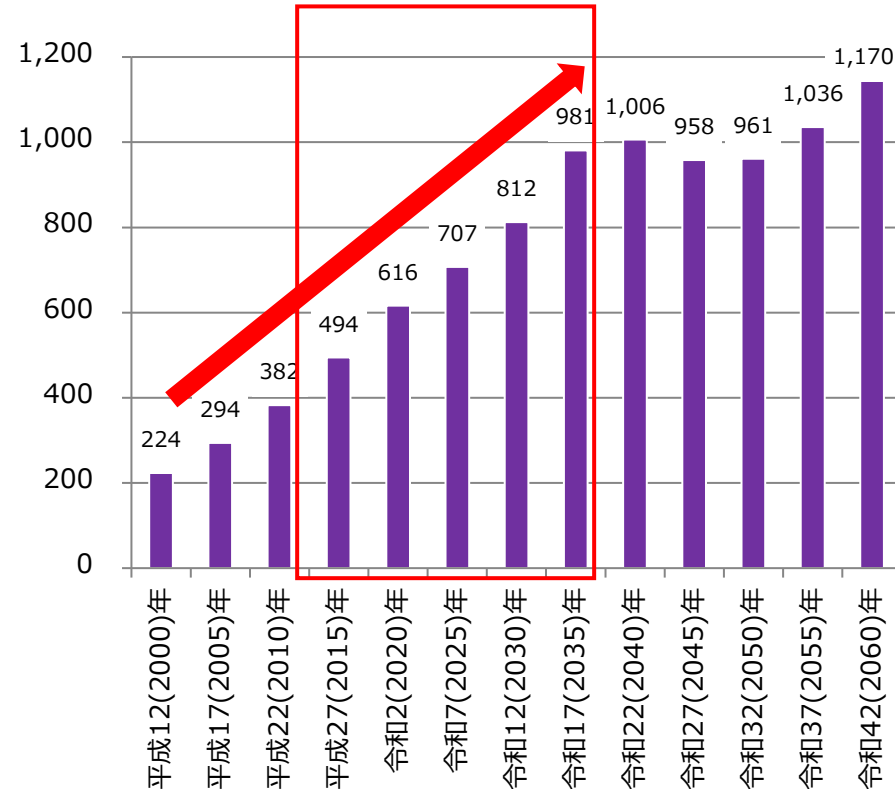
- 要介護認定率は、年齢が上がるにつれ上昇し、特に、85歳以上で上昇する。
- 2025年度以降、85歳以上の人口は、2040年に向けて引き続き増加が見込まれており、医療と介護の複合ニーズを持つ者が一層多くなることが見込まれる。

年齢階級別の要介護認定率



出典：2022年9月末認定者数（介護保険事業状況報告）及び2022年10月1日人口（総務省統計局人口推計）から作成

85歳以上の人口の推移



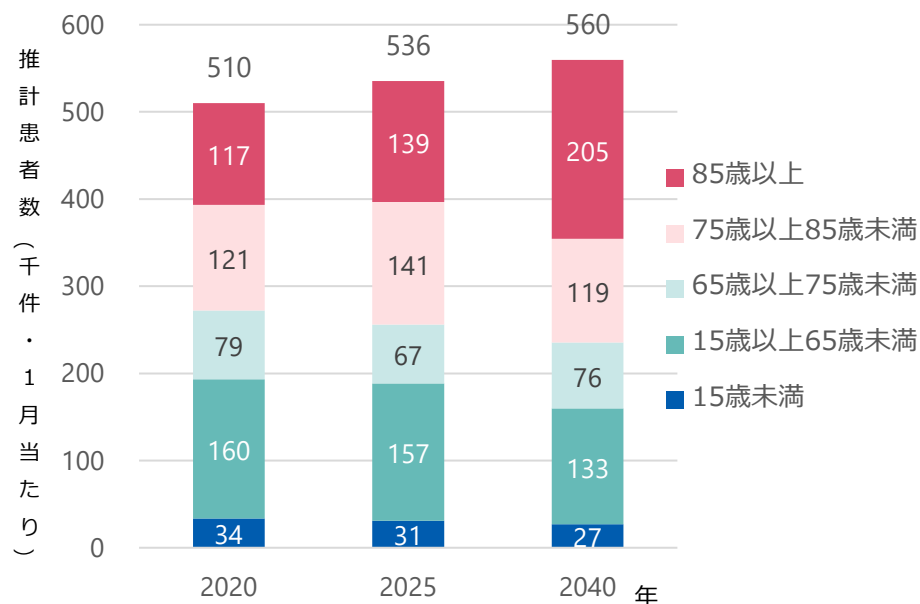
（資料）将来推計は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（令和5（2023）年4月推計）出生中位（死亡中位）推計
2020年までの実績は、総務省統計局「国勢調査」（年齢不詳人口を按分補正した人口）

2040年の医療需要について②

- 医療・介護の複合ニーズを有する85歳以上の高齢者が増加することが見込まれる中、2020年から2040年にかけて、85歳以上の救急搬送は75%増加し、85歳以上の在宅医療需要は62%増加することが見込まれる。

救急搬送の増加

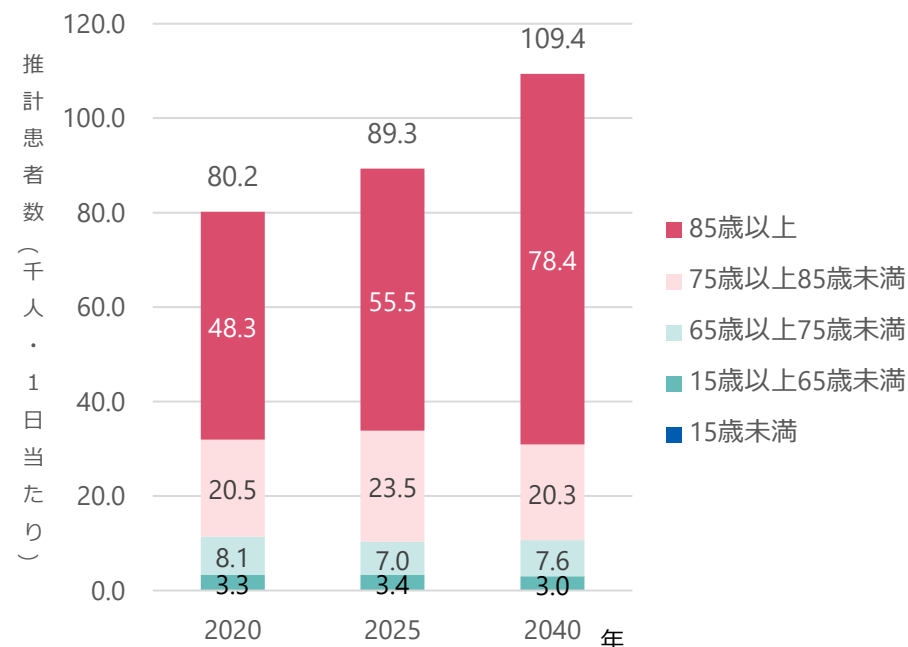
年齢階級別の救急搬送の件数の将来推計



2020年から2040年にかけて、75歳以上の救急搬送は36%増、うち85歳以上の救急搬送は75%増と見込まれる。

在宅医療需要の増加

年齢階級別の訪問診療患者数の将来推計



2020年から2040年にかけて、75歳以上の訪問診療の需要は43%増、うち85歳以上の訪問診療の需要は62%増と見込まれる。

資料出所：消防庁データを用いて、救急搬送（2019年度分）の件数を集計したものを、2020年1月住民基本台帳人口で把握した都道府県別人口で除して年齢階級別に利用率を作成し、地域別将来推計人口に適用して作成。

※ 救急搬送の1月当たり件数を、年齢階級別人口で除して作成。

※ 性別不詳については集計対象外としている。また、年齢階級別人口については、年齢不詳人口を除いて利用した。

出典：厚生労働省「患者調査」（2017年）

総務省「人口推計」（2017年）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023年推計）」を基に地域医療計画課において推計。

〔図表 5〕 胆江圏域の病床機能別病床数

	[参考] 2014 (H26) 時点の 病床数	2025年の 必要病床数 (A)	2026年3月末 時点の病床数 (B)	必要病床数 との乖離 (B) - (A)	病床数の内訳
高度急性期	0	84	6	▲ 78	胆沢6
急性期	825	357	361	4	胆沢331、水沢20、民間10
回復期	60	312	467	155	江刺60、奥州96、美希149、石川20、 水沢75、まご48、衣川19
慢性期	606	445	344	▲101	奥州60、美山172、美希100、石川12
計	1,491	1,198	1,178	▲ 20	
休棟中	0	0	59	59	水沢40、前沢19
計	1,491	1,198	1,237	39	

※1 病床機能報告制度とは、病院・有床診療所が医療機能の現状と今後の方向を自ら1つ選択し、県に報告するもの

「高度急性期」 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供

「急性期」 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能

「回復期」 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供

「慢性期」 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能

※2 胆沢：県立胆沢病院、江刺：県立江刺病院、奥州：奥州病院、美山：美山病院、美希：美希病院、石川：石川病院、水沢：総合水沢病院

まご：まごころ病院、前沢：前沢診療所、衣川：衣川診療所、民間：民間診療所

【出典】令和7年度第2回胆江圏域地域医療連携会議（令和8年2月5日）資料「胆江圏域の地域医療構想に係る具体的対応方針について」を元に、第3回奥州市地域医療検討会議（令和8年7月7日）での聞き取り結果等を反映させたもの

〔図表 6〕 胆江圏域の救急医療の状況

表 1 救急医療の実施状況

	県立 胆沢病院	県立 江刺病院	奥州病院	美山病院	美希病院	石川病院	総合 水沢病院	まごころ 病院	合計
救急告示病院	●	●	●	—	—	—	●	●	5 件
二次救急医療施設	●	●	●	—	—	—	●	●	5 件
三次救急医療施設	—	—	—	—	—	—	—	—	0 件
救急車の受入件数	3,476件 (65.5%)	185件 (3.5%)	231件 (4.4%)	7件 (0.1%)	127件 (2.4%)	43件 (0.8%)	1,032件 (19.5%)	202件 (3.8%)	5,303件 (100.0%)
時間外に受診した 患者延べ数	11,920件 (68.8%)	1,528件 (8.8%)	985件 (5.7%)	16件 (0.1%)	128件 (0.7%)	65件 (0.4%)	2,173件 (12.5%)	514件 (3.0%)	17,329件 (100.0%)
休日	4,980件	787件	458件	7件	53件	44件	895件	247件	7,471件
夜間・時間外	6,940件	741件	527件	9件	75件	21件	1,278件	267件	9,858件

表 2 二次救急病院群輪番制の実施状況

	県立 胆沢病院	県立 江刺病院	奥州病院	総合 水沢病院	合計
年間割当回数	276回 (56.6%)	78回 (16.0%)	53回 (10.9%)	81回 (16.6%)	488回 (100.0%)
標榜時間外の救急 搬送実績	11,547人 (78.9%)	787人 (5.4%)	544人 (3.7%)	1,754人 (12.0%)	14,632人 (100.0%)
救急車(搬送)	2,362人	211人	135人	671人	3,379人
その他(自力搬送等)	9,185人	576人	409人	1,083人	11,253人

図 救急車の受入件数

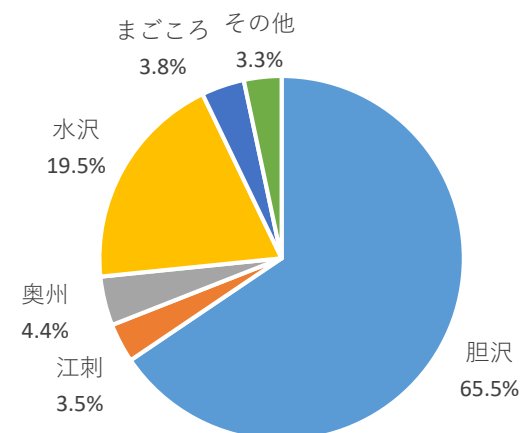


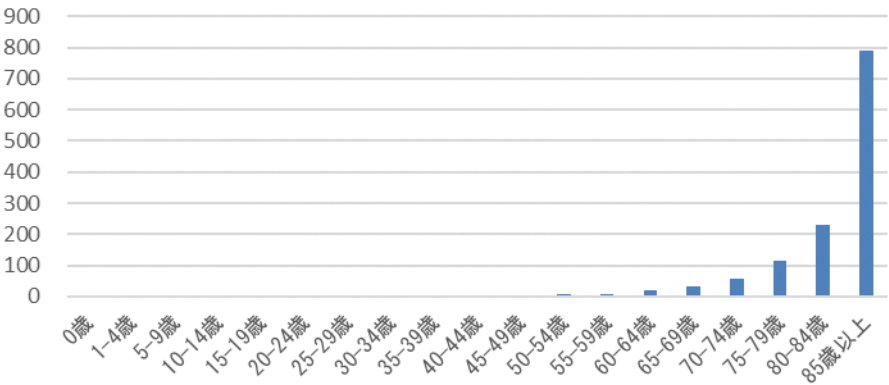
表 1 【出典：岩手県内における医療機関ごとの病床の状況（令和 7 年度病床機能報告データ）】

表 2 【出典：令和 7 年度胆江地域二次救急病院群輪番体制連絡会資料】

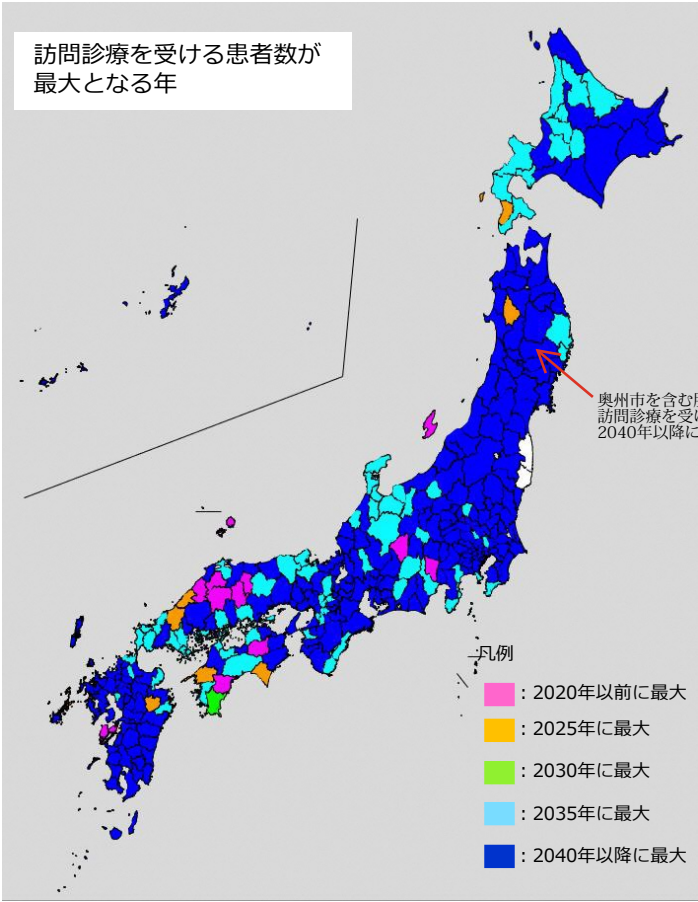
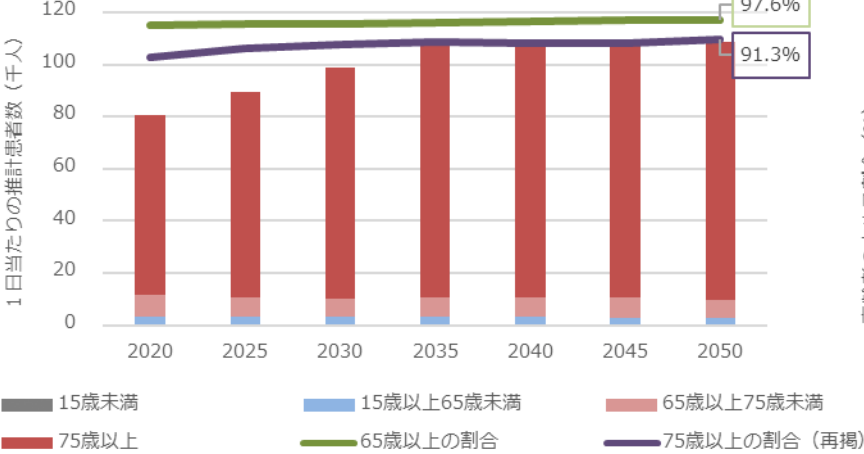
医療需要の変化 在宅患者数は、多くの地域で今後増加する

- 全国での在宅患者数は、2040年以降にピークを迎えることが見込まれる。
- 在宅患者数は、多くの地域で今後増加し、2040年以降に237の二次医療圏において在宅患者数のピークを迎えることが見込まれる。

訪問診療受療率（人口10万対）



訪問診療利用者数推計



出典：厚生労働省「患者調査」（2017年）、総務省「住民基本台帳人口」（2018年）、「人口推計」（2017年）及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023年推計）」を基に厚生労働省医政局地域医療計画課において推計。

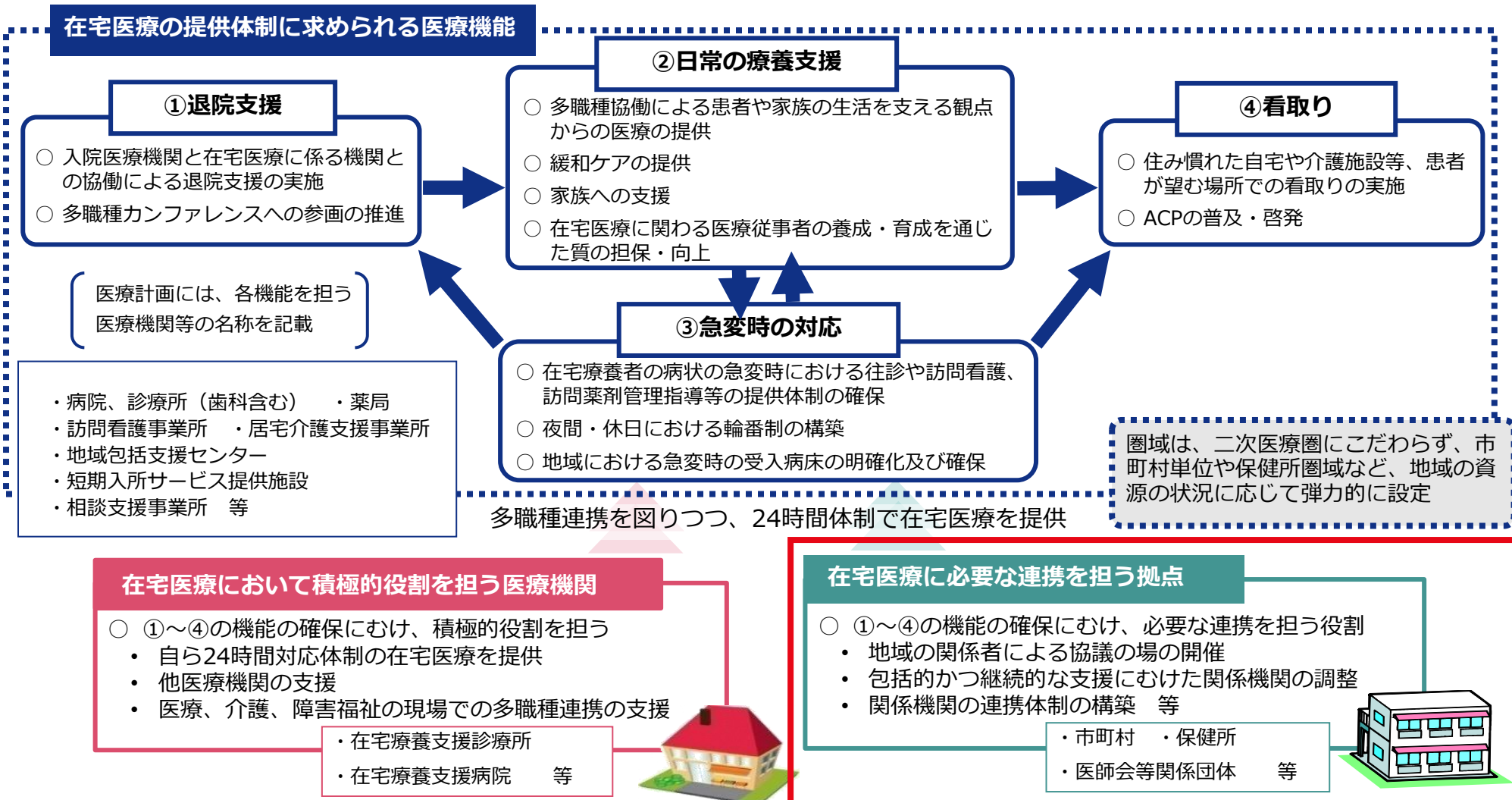
※ 二次医療圏の患者数は、当該二次医療圏が属する都道府県の受療率が各医療圏に当てはまるものとして、将来の人口推計を用いて算出。

※ 福島県は相双、いわきの2医療圏を含む浜通り地域が一体として人口推計が行われているため、地域別の推計を行うに当たっては、これらの2地域を除く333の二次医療圏について集計。

在宅医療の体制について

- 在宅医療の体制については、都道府県が策定する医療計画に、地域の実情を踏まえた課題や施策等を記載する。
- 国は「在宅医療の体制構築に係る指針」を提示し、都道府県が確保すべき機能等を示している。

～ 「在宅医療の体制構築に係る指針」による在宅医療提供体制のイメージ ～



2040年に向けた地域医療構想について

背景

- 2040年頃に向けて、医療・介護の複合ニーズを抱える85歳以上の高齢者の増加、人材確保の制約、地域差の拡大が想定される。
- 増加する高齢者救急・在宅医療の需要への対応、医療の質や医療従事者の確保、地域における必要な医療機能の維持が求められる。

- ・ 入院医療だけでなく、外来・在宅医療、介護との連携、人材確保を含めたあるべき医療提供体制の実現に資する地域医療構想を策定。
- ・ 2040年やその先を見据え、医療機関の役割分担を明確化し、医療機関機能に着目した医療機関の連携・再編・集約化を推進。

分野ごとの取組

入院医療

持続可能な急性期医療の確保

- ・ 急性期の医療需要の見込み等を踏まえ、急性期症例の集約化や、手術・救急医療の役割分担等について協議

高齢者救急の受入体制の整備

- ・ 高齢者救急の考え方を踏まえた、救急の実施基準への反映や入院早期からのリハビリ等の推進

外来医療

外来医療提供体制の維持

- ・ 外来医療の需要見込みや地域の資源等を踏まえ、休日・夜間を含めた提供体制の整備やアクセス確保の取組を検討

在宅医療

在宅医療の受け皿の整備

- ・ 在宅医療、介護保険施設、療養病床を一体的に捉え受け皿を整備
- ・ 多職種連携の取組等の推進

介護との連携

医療と介護の複合ニーズへの対応

- ・ 慢性期の医療需要を一体的に把握し、介護保険施設の活用方向性を協議
- ・ 医療と介護の相互理解の推進

人材確保

地域における医療人材の確保

- ・ 大学病院本院と連携し、地域医療構想全体を踏まえた人的協力について協議
- ・ 看護師等の人材確保の方向性を反映

具体的な施策

構想区域の見直し

医療機関の連携・再編・集約化など医療提供体制構築のための議論や、必要病床数の運用の単位として、人口20万人以上を基本としつつ、地域の実情を踏まえ柔軟に設定

医療機関機能報告の新設

医療機関機能の確保の協議を通じて将来の医療提供体制の確保の取組を推進

高齢者救急・地域急性期機能

- ・ 高齢者をはじめとした救急搬送の受入
- ・ 入院早期からのリハビリ・退院調整等の実施

急性期拠点機能

- ・ 人口20万～30万に1つを目安に確保
- ・ 手術等の医療資源を多く要する医療を集約して提供

在宅医療等連携機能

- ・ 地域での在宅医療の提供
- ・ 他の施設等と連携した24時間対応等の実施

専門等機能

- ・ 集中的なリハビリテーション、中長期にわたる入院医療、有床診療所の担う地域に根ざした診療、一部の診療科に特化し地域ニーズに応じた診療を提供

医育及び広域診療機能（大学病院本院）

- ・ 都道府県と連携した人的協力 ・ 広域的に担うべき医療の提供、人材の育成

病床機能報告・必要病床数の見直し

病床機能区分について回復期を包括期とした上で、2040年の必要病床数について地域医療構想の取組等を踏まえた推計を実施し、病床機能の分化・連携を推進

■ 医療需要の変化

- 外来患者数、入院患者数、手術件数は多くの区域で減少が見込まれており、効率的な医療提供体制を構築していく上では、**医療機能の集約化・重点化を含めた医療提供体制の在り方について検討が必要。**

■ 病床機能の見直し

- 病床利用率や2040年の患者数/日、必要病床数の見通しを踏まえ、**急性期病床から包括期病床への転換やダウンサイズについて検討が必要。**



需要分析のまとめ①（構想区域）

- 岩手県では、**既に多くの区域で高齢者人口が減少局面**に入っており、**高齢者人口の増加を前提とした全国的な状況とは異なっている。**
- **今後、医療需要の減少が見込まれる中、将来にわたり必要な医療提供体制を維持・確保していくために現行の構想区域が適切な単位であるか検討が必要。**

需要分析のまとめ②（在宅医療等）

- **厚生労働省による機械的な推計**では需要の増加が見込まれる区域があるものの、施設サービスの利用動向、医療・介護資源の確保状況等の要因によっては、推計結果と実際の需要が**異なる可能性**がある。このため、療養病床や介護保険施設等の**既存資源を組み合わせながら一体的な検討が必要。**